

血小板産生能と血小板恒数に関する検討

永井 直治, 岸森 千幸, 前川 芳明, 山本 慶和, 松尾 収二 (天理よろづ相談所病院)

現在市販されている自動血球計数装置の多くは血小板数の測定と同時に血小板関連パラメーターが表示されている。そこで今回、血小板恒数 (MPV, PDW, P-LCR) (以下恒数) の意義について検討したので報告する。

【対象および方法】対象は当院にて末梢血一般検査が施行された約 3,000件を用い、使用機器は自動血球計数装置 XE-2100 (sysmex) を用いた。

【結果および考察】血小板数と恒数の関係を見たところ、血小板数はすべての恒数と逆相関が見られた。しかし両者での解離も見られた。そこで、明らかに解離の見られた例、すなわち PLT10万 / μ l 以下で MPV9.0f 以下の 5例 (群) および PLT20万 / μ l 以上で MPVが 12.0f 以上の 4例 (群) についてカルテ検索を行ったところ、群 の 5例中 3例が化学療法後で血小板産生能の低下が予想される例であり、群 については CM、感染症等全例が血小板産生能の亢進が予想される症例であった。そ

こで血小板産生能と恒数の関係を骨髓像から検討した。Megakaryocyte過形成 4例と低形成 3例について恒数を比較した。過形成群の恒数の平均 (PLT 34.7, PDW13.4, MPV10.9, P-LCR32.7) は低形成群のそれ (PLT5.2, PDW9.6, MPV9.4, P-LCR20.0) と比較し血小板数も恒数も高値であった。以上のことから恒数の上昇は血小板産生亢進の情報であることが示唆された。さらに、手術により血小板を消費されたと考えられた 6例において血小板および恒数の時系列変化を追ったところ、血小板産生の亢進時期に恒数は高値であり、血小板数の回復と同時に低下していた。

以上より、恒数は血小板数よりも血小板産生能を反映しているのではないかと考えられた。

【結語】恒数は血小板産生能を反映しており、産生能が亢進している場合高値傾向、産生能が低下している場合低値傾向であった。

連絡先：0743-63-5611 内線 8921